

任期途中で退職（辞職）した川勝平太前静岡知事の差別的発言が浮かんた。2024 年 4 月 1 日に、同県新入職員への訓示の中で、「県庁はシンクタンクです。毎日毎日、野菜を売ったり、牛の世話をしたり、モノをつくったりということと**違って**、皆様は頭脳、知性の高い方です」と発言したことが問題になった。

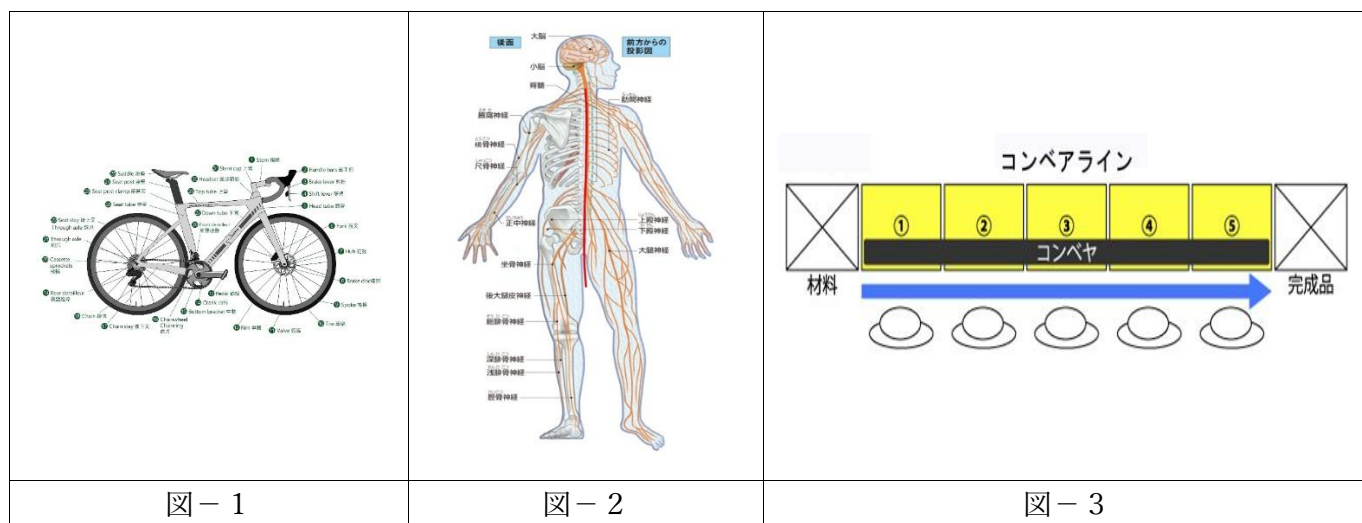
その 1；

この発言を踏まえて、私なりの別の角度から見る、様々あるが、図－**1**の自転車、図－**2**の人体、図－**3**のベルトコンベアラインを取り上げる。

まずは、1100 個以上のパーツ（部品）で出来ている自転車「<https://www.bonecollection.com/ja/>」を取り上げる。訓える処は、華嚴世界の**相互関連性・相^{そうえ}依相関ネットワーク**（縁起）の賜物だ、あるいは、「もの・こと」は縁起の結実であると説くことに同じ。例えば、一つの部品サドルを外した場合これを自転車というのか、自転車の機能を果たせないで自転車とはいわない、自転車じゃなくなったその瞬間、タイヤはタイヤの機能を果たせないでタイヤでなくなったのである。個々のサドル、タイヤ、総合体の自転車は分離不可分一体のものであるということが自明の理である。

また、人間の生命回路である。微小精緻な細胞、自己調整機能を持つ組織体、高度な伝達システムを持つ神経回路は、個々の分業を 100%発揮しつつその統合体は矛盾・混乱することなく調和を維持しているのだ、生命情報は瞬時に相互交換するのだ。

さらに、コンベアラインは、例えば、③の人が手を抜いた場合、正規品として完成しない。同様に、どこか一部の人であれ手抜き作業をすれば規格品は完成しない。ということは、①から⑤までの五つのセクションの重要性はまったく同じということになる。輪切り状態にしたどの断面（役割、使命）を取っても重要度・必要性は変わらないのだ。つまり、製品製造過程のいかなる時点（断面）においても重要性、役割の密度は同じとなる。



共通的簡単に言えることは、個々の機能や部品は独自の役割を持っている、逆説的に言えば統合体を分業している訳で、個々は全体にとって必要不可欠、どれかの部品が欠落・不良品であれば統合体としての完成品に至らないのは言うまでもない。

川勝さんの言葉に戻って、後に「職業差別ではなく、なりわいの違いを申し上げたつもり」と弁明しているが、それではそこを是として私の考えである。「野菜を（作って）売ったり」する業態と人、「高い知性が必要という市業務を」行う業態と人の違いとは？ そこに何の違いが生ずるのか？ 違いというのは相対比較においてはそこに差異が生ずるから、差異が生じたから違うという日本語だろう。違い・差異は何かと問えば、並べて能力の相対比較を行い、能力・機能の上下を判定した、あえて上下の判別を下した、与えたということだろう。これは道徳的社会常識としては職業差別であると認識される。「野菜を（作って）売ったり」する機能・役割・任務と、「高い知性を以って行うという市業務」の機能・役割・任務はその名のとおりいわば別次元、別フィールドでの人間活動だろう、同じテーブルに挙げて、並べて優劣を評価出来るものではないだろう。だって、**万民が納得する共通の評価基準を作る**ことが出来ないから。

個体と全体との相関は華嚴の世界であって、個体は全体の一部を担う役割分担活動であり、全体は個体を統合する役割分担活動であることから、個があつての全、全があつての個、個無くして全無し、全無くして個無し、どちらか一方を欠いて他方は成り立たないのだから、個体と全体は分離不可分一体なのである。そうすると、「野菜を（作って）売ったり」する業態と人、「高い知性が必要という市業務を」行う業態と人に優劣の序列、後先の順位を付けようが無いのだと分かる。この世から、その地域から「野菜を（作って）売ったり」する業態と人を廃失したらどうなるのか、市業務を行う業態と人は成り立つのか、成り立たないだろう。私ごときものがグダグタいうまでもなく、天地人一体の活動は宇宙の自然原理なのだ、どこの大学を出た頭でっかちなのか知る由もないが、人物的には小物であったのだ。それぞれの役割は天職・天分である、100歩譲って仮に天職に優劣を付けるとすれば天が採点・判定すれば良いのだ、たかが知事のぞんざいで、たかが「扇形 selector」（図-2）の存在で偉そうなことを言うな！である。私にはまったく思付かないが、「知」の枝葉末節化の結末なのであろう。

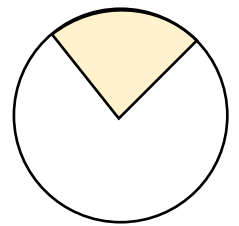


図-2

その2；

さて、次の切り口。私は所々で、チーム・集団活動においては「**人的ワースト5・マンキダゲ倭奸根性**」（根性曲がり）は百害あって一利無しなので外せと書いているが、冒頭自転車^{せんけい}の処に書いているが、それでは、一つが外れて消滅すると、全体が成立しなくなるではないかという疑義が生ずることになる。

答えは至って単純明快である。そういう人は陰陽の特徴の病的な側面を有し、簡単に言うと自分は努力せずして、相手を蹴落とす策略を以って相対的に自分が優位に立とうとする性格であることから、全体にとって、チーム・集団にとって「百害あって一利無し、組織の癌」である、よって、**まずは外して**、陰陽特徴の健全な正面人物を**当てはめれば**いいだけである、要は差し替えである、的確に「外す・^は嵌める」ことである、よく人事評価において大義名分に使う、重宝する「適材適所」という名句があるではないか。よく、「適材適所」に嵌まる陰陽特徴の健全な正面人物は見当たらないという愚痴が聞こえるが、「**ごちゃ混ぜシャッフル**」すれば「**能ある鷹は爪を隠した**」稀有な人は必ずいる、したがって、トップは隅々まで監視・観察・思索の英邁な眼光を照射し続けなければならないのだ。しかし、吾がコミュニティを見ると、役員を探すのは面倒くさいものだから安直に仲間内から当てるのだ。問題は、トップにその資質が有りや否やであるが。ところで、がん治療の最先端医学は患部に対するピンポイント照射による撃退・除去の重粒子線治療であり、チーム内のそういう性格の人は、この理に適い重粒子線を以って厳格に対処すべきなのである。介護保険の認定有効期間は原則6か月だが、普通の組織

において、少なくとも半年毎に厳格な人事評価・業績評価をやっているのか、それともまああの仲良しクラブなのだろうか。こんなことを言うと、大方は中小零細組織ではそんなことをしたら誰も入って来ないという言い訳タラタラなのだろうか。。。 こんなことを言う私に批判の矢が飛んで来そう。

住みやすい生きがいのある社会にするためには、業績評価云々以前に、開かれた一般社会であれ、閉鎖された組織集団であれ、公私を超えて人間としての本質的な価値・尊厳に優劣はないのだという大前提をきちんと弁える必要があるのだ、そういう人間精神で養われた眼識は中道正観照射を以って陶冶され適正評価を下すことが出来るのだと思う。

その3；

コンペアラインを価値と能力という面（図-3）から捉えて見る。この仕事の全体に共通する職務価値（必要最低限の精度）は「平等」であり、それを皆がクリアーしている。一人ひとりの仕上がり結果（精度）にはバラツキはあるが、許容範囲内でまったく問題はない。結果として現れた結果（能力）の差異は現実である、これは「差別（しゃべつ）」である。この「差別（しゃべつ）」とは個性と同義で他に悪影響を及ぼすものではない。給与（労働対価）はその結果に対して支払われるものなのだ。

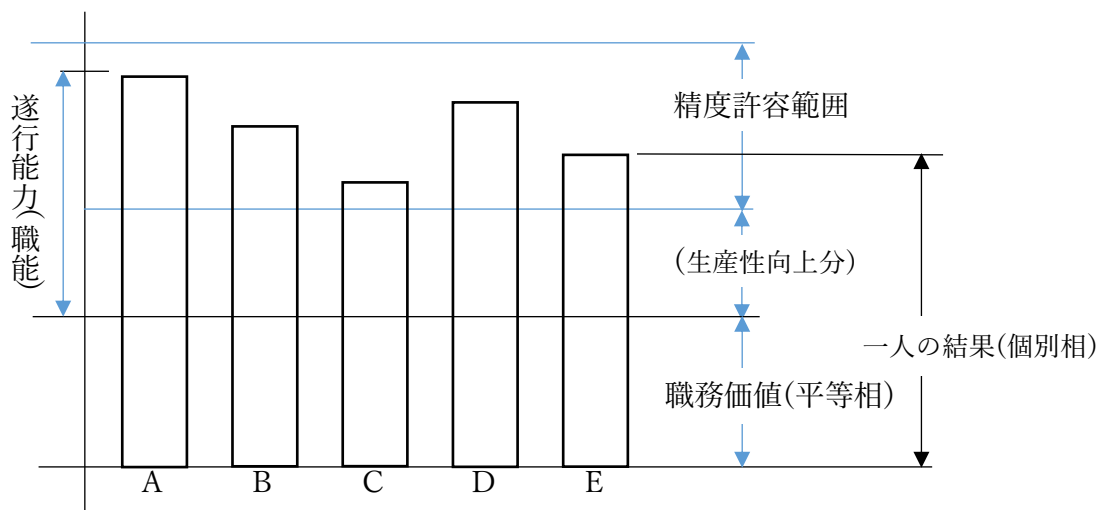


図-3

人間社会は、百人百様の人間が、何らかの社会組織に直接・間接に関係し、何らかの役割を担って生きている。人間は有形無形の森羅万象と因縁を以て連関している、一人の人間はその社会の構成員となっている、感情的な好き嫌いや意識の有無に係らず社会と繋がっている。社会構成に必要不可欠な一人ひとりの重み——尊厳、重要度、存在意義、生命活動——については差異（差別）^{しゃべつ}はまったく無く、「平等」なのだ。個性（=差別）^{しゃべつ}は互いに相互不可侵で、相対比較そのものが不可能で崇高な概念である。人間の心・言・行の面を探ると、実態としての他人とは異なる個性を表し異なる役割を担う「差別相」^{しゃべつ}の働きと、優劣分離不可分の存在そのものに係る人間の偉大性を担う「平等相」の働きの両面を同時内包しているのである。

(end)